

あくまでも自分史として

# 「岳陽」と共に

第 47 号

発行日  
2025.03. 15  
編集・発行  
井上講四／堂本彰夫  
※連絡先  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市  
大謝名 3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail:  
gakuyou17@outlook.jp

## ○為政は、取引(ディール)という名のカードゲーム?

先日、何とも言えない「幻滅」の光景を、目の当たりにした!本当は、そういう光景(事象)は多々あるのであるが、直接見たのは初めてであった!とにかく、そこには、正義(公正 justice)の国の片鱗もなかった(軍なる「取引(ディール)」という名のカードゲームのプレーヤー)のよう?!これが、今の斯国の姿だと言えば、そうなのであるが、余りにも酷かった(露骨すぎる!たゞ偶発的であつても?)!!

もちろん、斯国の多くの人々はそうではないであろうが、憂慮すべきは、そうした現実の為政が、そうした人々によって担われている(しかも、一応?選挙によって選ばれている!)ーまさに、そのことである(そういうことではないである)が、私には、そのように見えてしまう!。だが、冷静に捉えれば、実際の為政というものは、ある意味では「取引(ディール)」であり(外交であれ、内政であれ、そうでなければ、数多の難問・課題は解決されない!!それが現前の真実であり、そのことは、多くの人が、残念だが承知はしている!!とは言え、その難問・課題が、こと(多くの)人間の「命」に関わるものであれば、「取引(ディール)」だとか、「カードゲーム」だとか、そんなことは、言つてはおられないはずである!そういうことは、過去の悲惨な経緯により、人類共通の、そしてまた未来永劫の価値(正義?)となつていくはずである!だから、今回のそれが、凶らずもそのような価値を逸脱(凌辱?)しているとするれば、それは、何よりも、今後の人類そのものの危機となる!賭けや損得だけで、人類はここまでできたのか?「ホモサピエンス(賢い人)よ!どこへ行く?そんなことさえ思わせる次第である!!

## ○果てのない「理想と現実の間」!理想の役割?

これもまた、ある意味では哀しい路傍の弁とも言えるが、今の世界は、果てのない「理想と現実の間にある」とも言わざるを得ない?ただし、残念ながら、その「間」自体は、どこの社会も、いつの世も存在するものではあるので、今更嘆いても仕方がない!それが、多くの、そして名も無き人々の「運命(きま)」なのかもしれない!!だが、たとえそうであつても、ただただ悔しいのは、その理想と現実の間が、時々の為政者やそれを支持する上層部の判断(恣意?)次第で、予期せぬ深淵を招くということである!

けれど、これについては、これ以上のことは書きたくないが、ここで想うことは、そうした事態が、己の意思や行動の結果(例えば選挙)であるならば、それはそれで甘受しなければならぬが(自業自得?)、それが、まったくの自らの与りもしないものであるならば、何とも歯痒く、怒りさえ覚えるものとなる!あまつさえ、ひどくなる一方の現実を目の前にして、そのことを忸怩たる思いで傍観していく他ない人間が生まれていることなど、ほとんど忘れ去られてしまうということである!!

時たま、その悔しい現実の一端が暴かれたりすることもあるが、それは氷山の一角であり、しかも、そういう光景には、却つて嫌悪感が募る!何故なら、忘れてならないのは、そうしたものは、特定の人間や組織の利益や思惑から生まれているのではなく、今を生きている、それこそ全ての人間の合わせ業でもあるからである!!だから、「理想」は、常に、その「現実」と共になければならぬのである(忌避したり、非難したりするだけではダメだということである!!)!

## ○何も言うことはない!否、言えない!

もう、随分時間も経つたし、何よりも哀し過ぎることであつたので、改めてここに書くことは、本当に憚れるのであるが(ただし、これを書き始めたのは直後であつたが!)、知つてしまつた以上、何も残さないのは、逆に許されぬ?とも思い、少しだけ書いておくこととする。それは、「坂本しのぶさん」という人の話である!ただ、それについては、今の私には、「何も言うことはない!否、言えない!」ということ、ここでは、それを知つた経緯だけを書き記しておきたい。

しかるに、それを知つたのは、2月24日(月)、いつもの遅い昼食を、我が奥さんと取つていた時であるが、かけていたテレビ(NHK総合)で、ある番組が始まつた。それは、「ETV特集」とあつたが(おそらく再放送?調べたら、初回放送日:2025年1月18日であつた)、タイトル(坂本しのぶさん 誰か私の声を聞いて)がヘビー(そうであつたので、観るのを止めようとも思つたが)最近、よくそうしている?)、結局は、最後まで観てしまつた!否、観るのを止められなかつたのである!何がそうさせたのかは、一応自分自身で分からないわけではないが、それを書くと、陳腐ともなるので、ここでは敢えて書かないということでもある!

だが、それはともかく、番組内容は、「坂本しのぶさん、68歳。母親の胎内で有機水銀に侵され、生まれながら水俣病を背負つた『胎児性患者』、『水俣病の象徴』として生きてきた。私(吉崎健ダイレクター)がしのぶさんと出会つたのは34年前。以来、継続して水俣の取材を続けてきた。去年、しのぶさんから、もう一度自分を撮つて欲しいと言われた。しのぶさんが今伝えたいことは何か。坂本しのぶさんの生き抜いてきた半生をたどり、しのぶさんの心の声に耳を傾ける。」とあつた(ネット情報より)。

というところで、この番組は、「私(吉崎健ダイレクター)」と「坂本しのぶさん」との、長年に亘る取材・交流を描いたものというところであるが、そこに映し出されている様々な出来事、人との出会いは、本当に胸を掻きまられるものであつた!もちろん、これは、決して悪い意味ではない!ただ、とにかく今は、彼らは、少しでも報われて欲しい!思うのは、それだけである!(井上)

○「世界線」というものがあるらしい。

話は変わるが、最近、「世界線」(World Line)という言葉に出会った。もともと科学的・SF的な背景をもつ専門用語で、アニメやオタク文化を通じて広く知られるようになり、今では若者言葉として、日常会話やSNSでも気軽に使われているようである。余談ながら、過日、若い卒業生達が訪ねて来たので、そのことを聞いてみたが、結構普通に会話に取り入れているということであつた！調べてみると、「現実から少しズレた状況や可能性」をイメージする言葉として活用されているらしい!!

改めて、それは、「パラレルワールドや時間軸の概念さらには相対性理論や量子力学などの科学的視点も押さえておく」とより深く楽しむことができる。：世界線が唯一絶対のものとは限らない。そんなロマンあふれる発想が、新鮮な驚きや好奇心を与えているのかも。もし日常で「こんなの私の知っている世界線じゃない!」と感じることがあつたら、：『世界線』の話で盛り上がる絶好のチャンス。ぜひ多彩な解釈や用法を楽しみながら、言葉の広がりや体験して：とあつたが、ある意味、それは、現実世界では、ある種の「タブー(禁忌)である「たられれば」を、自分達の身(内なる現実)に抱き込むことも言える!!

いずれにしても、「こゝした表現は、私たちの生活とSF的発想を結びつける興味深い役割を果たしている。だが、若者言葉として広まりつつある一方で、：物理学的・SF的な元の意味が薄れてしまふという懸念の声も：ただ、言葉は時代とともに意味や使い方が変化するもの。オタク用語から一般化していく過程で、新たな使い方や解釈が生まれるのは自然な流れ：『世界線』という言葉は、時間の流れや空間の広がりを超えて、個人や物体がどのようなルートを取ったのかを示す意味合いがある」のである！

だが、この言葉を、オタク・若者達が好んで使うには、それ以上の理由がある？それは、眼前の現実と自分を、常にどこかで峻別しておきたいというたかさも!!

○時代を象徴する5つのキーワード? 「AI」は何と?

とここで、上記とも関わるが、今を象徴するキーワードとして、「インターネット、コンプライアンス、豊かさ、結婚、戦争」の5つが挙げられていた(ある新聞記事)！その適否はともかく、そう言われれば、まさしくそうなのか？それだけが、各自の「世界線」を左右するものであることは分かるが、全体としては、どのように蠢いている(否、絡んでいる)のか？だが、その全体を見極めることは、生身の人間(名も無き普通の人間)にとっては、少々難しい!!

ふと、かの「生成AI」に聞いてみるのも面白いとも思うが、まだまだ意地張りの私には、そういうことは委ねたくない！まあ、そんなことを思うわけであるが、要は、人間として、便利さ(インターネット)と正しさ(コンプライアンス)と豊かさ(素敵な伴侶(結婚)と、平和な人生(戦争)を歩むということになるのか!!もちろん和な人生(戦争)を歩むということになるのか!!もちろん「よき未来」は、そこにあるということでもある!!

＜短歌に託して＞「世界線」に惑わされつつも!!  
・地に落ちた 正義(公正)? 為政は  
・ディールという名の カードゲームか!!

理想と現実の間はま だがその現実には  
己の理想を しかと絡ませなければ!  
・何も言うことはない! 否、言えない!  
ただただその生 報われて欲しい!

・世界線 何のことやらと 思つたら  
“ たられれば 抱き込む 己が身とも?”  
・時代を象徴するキーワード?  
そこにどんな状況が 蠢いているのだ?

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕④

○ここからは、九州での隠れた事績を追うーその2ー  
しかるに、この「日本書紀」(中心は「蘇我」系)は、おそらく、かの「高良大社(高良玉垂宮)」の存在と大いに関わると思われるが(紀氏/開化天皇/老松神社/松野連氏との関わり?)、ある時期(邪馬台国運合戦後?)、倭国の中心をなしていた(「記紀」は、大和政権の九州駐屯地のような扱いをしているが?)だから、百済や、他の南韓地域の国々が、その地を確認しようとしていた!!そして、新たな関係を結ぼうとしていた!!

だが、その「高良大社(貴国を各)」に関わって、一方でもう一方になるのが、「阿蘇」との関係である!と言つのも、その地域、つまり筑後の名族とされる「蒲池(やま)氏」(最初の「柳川城主」が、阿蘇と関係があるらしいのである)すなわち、「祖(も)蒲池」と呼ばれる土族(阿蘇祖)が、阿蘇の「蒲池比咩(やま)氏」(阿蘇神社)の元宮とされる「国造神社/北宮」の主祭神の一人(阿蘇の母神)を祖とする(と伝わっており、その古族が「水沼氏族」と重なっているというのである)!!さらに、その阿蘇の蒲池比咩は、かの「草部百見氏族」が奉祭する女神でもあるのである!

そして、実は、こちらの方も(ぶ)興味深いのは、かの高良大社の「玉垂神」の名は、いわゆる「潮干珠(玉)、潮満珠(玉)」に纏わるもので、火(肥)国の伝承では、古くは、この蒲池比咩がそれを用いて、潮の満ち引きを司る「八代海の女神」とされてきたらしいのである(なお、彼女自身を祀る神社が、宇土半島の付け根にある郡浦(よ)の「蒲池比咩神社」!!しかも、後代において、かの「水沼氏」は「目下部氏」を称すともあり、阿蘇の祖族である「草部百見族」も、やはり目下部氏族なのである!!

要は、かの高良大社の神職には、その「玉垂神」の裔とされる「目下部(草部)百見(玉)氏」があり、その地の高良山前衛部が「百見の峰」と呼ばれ、高良に蒲池比咩の祭祀氏族、阿蘇の草部百見族の存在が窺われるのである!!ただし、この氏族には多くの系譜があり、九州の古い氏族(日向阿蘇、日田、高良など)は、そこでの祭祀氏族とされ、しかも、本来は中南部九州の狗人(球磨貴族/隼人)に由来するともされる!!(つづく)(堂本) (編集後記) 国内外の、想像を超えた人々の動きを、ほとんど傍観するしかありません、一方で、四季の移ろいや各種イベント(祭事・行事等)は、自らの内で律儀に繰り返されている!!これが、「私を生きている」ということであらう!! (井上/堂本)